

9月21日
消防の活動を知ってください
川湯消防で初の開放日



弟屈消防署川湯支署と川湯消防団主催の川湯消防開放日が、9月21日に行われました。楽しみながら消防の活動を広く知ってもらおうと、今年初めて開催されたものです。来場した皆さんは、はしご車に乗って川湯の街を一望したり、消防車で放水したりするなど、普段はできない体験を楽しみました。消防車や救急車に積載してある資機材の説明や、ホース巻き体験、消火器使用体験など、多彩な催しが好評で、来年以降の開催も予定しているとのこと

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐ反映させます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

9月23日
移住アドバイザーが大活躍
北海道暮らし・フェア2014



9月23日に東京都で行われた「北海道暮らし・フェア2014(NPO法人住んでみたい北海道推進会議主催)」に、本町も参加しました。道内市町村や関係企業がブースを設け各自のPRを行うもので、北海道への移住や定住、ちょっと暮らしなどを希望する方と直接相談できる貴重な機会となっています。本町のブースには60人以上の方が訪れ、弟屈での暮らしについて熱心に相談していました。相談に応じたのは、実際に本町に移住したアドバイザー2人。移住に関わる体験談を交え、さまざまな相談に応じていただきました。

9月28日
町内外から愛好家が集まる
熱戦続きの摩周湖ばん馬大会



オータムホース・フェスティバル「第6回摩周湖ばん馬大会」が9月28日、摩周湖馬場で開催されました。ばん馬文化の継承と地域活性化を目的に毎年開催されています。この日は小雨混じりの天候にもかかわらず、大勢の観客が集まりました。青森県からの出場など、ポニーを含む出場頭数は91頭。最終の重量びきレースでは、負担重量900キロの重しを乗せて走る馬の姿に、馬産農家はもちろん、観客からも大きな声援が送られました。また、レースのほか、観客参加の大抽選会や餅まき、乗馬体験なども行われ、子どもから大人まで楽しめるイベントになりました。

9月22日
農業の大切さを知ってほしい
JA青年部が弟屈小児童に食育授業



JA摩周湖青年部(山内功丞部長)の皆さんが9月22日、弟屈小学校(阿部典子校長)の3年生に食育授業を行いました。本町の基幹産業である農業について理解を深めてもらうとともに、好き嫌いのない子に育ててほしいと毎年開催しています。単元に「地域のことを知ろう」があることから、今年は3年生が対象となりました。児童は、同部員の説明の後、屈斜路の窪内繁義さんの農場で紅丸というジャガイモ掘りに挑戦。その後、ウオータースポーツ交流公園に移動し、同部員が用意したマークインの焼き芋を楽しみました。

9月24日
かけがえのない命を大切に
弟屈小と弟屈高で思春期保健講座



町主催の思春期保健講座が9月24日、弟屈小学校と弟屈高校で開催されました。妊娠の成り立ちや出産までを学ぶことで、命の大切さを再確認し、自己や周りの心身を大切に考えられるようになってほしいと毎年開催されているもの。弟屈・川湯・奥春別・美留和・昭栄各小学校の6年生と、弟屈高校の2年生が受講しました。講師は、思春期保健相談士の安藤由美子さん。妊娠が成立し無事にこの世に生まれてくることは奇跡に近い確率であり、全ての人が大切な命。たくさんの人に育ててもらった命を大切にしてほしいと強調しました。

弟屈高校で地震を想定した災害図上訓練

防災ワンポイントコーナー

地域の状況を把握しよう

弟屈高校(大泉齊校長)で9月24日、地震を想定した災害図上訓練(DIG)が行われ、全校生徒が参加しました。

東日本大震災を受けて一昨年から行っています。昨年は都合により実施できませんでしたが、今年の春には、地震発生時に同校が避難所となったことを想定し、避難所での生徒の活動について検討を行っています。今回は弟屈町直下で震度6強の地震が発生したとの想定で、学校周辺で火災が発生した際の避難経路の選定をテーマに訓練を行いました。

初めに役場総務課の中村英雄防災対策専門官から、町の地形形状の特性や過去の災害、同校を含む近隣の避難所の位置などについて説明を受けた後、防災訓練担当の先生の指導の下、DIGを実施。生徒は、同校の近くで救急車両が通れる道路や避難所、広場、消防署、ヘリコプターの指定着陸場などを地図に書き入れました。さらに、震度6強の地震に伴い同校近くで火災が発生したとの設定で、近くの安全な避難所を選定して避難経路を確認しました。

訓練後、中村防災対策専門官は「防災とは災害を防ぐことではなく、事前の準備を万全にして被害を最小限にすることです。一人一人が防災に関する知識を持つことで、被害を最小限にすることができます。また、災害時には自らリーダーシップを発揮する気概を持って、仲間と助け合う意識を持ってほしい」とまとめました。



地域の防災に関する話に聴き入る生徒

避難場所や避難経路などを地図上に記載

自治会・施設単位での防災研修・防災訓練 お気軽にご相談を

町では、自治会や学校、企業・施設などを対象に、防災研修会や防災訓練を開催しています。今年はいくつか、屈斜路自治会自主防災組織のDIG、弟屈町保育士連絡協議会に対する防災講話(2回)、川湯中学校での避難訓練指導、弟屈高校のDIGを行っています。

10月29日に実施した弟屈町総合防災訓練には、美羅尾ヶ丘自治会、湯の島自治会、摩周丘幼稚園の皆さんが参加しました。今後は11月に特別養護老人ホーム摩周の職員に対する防災講話、12月には弟屈町保育士連絡協議会のDIGを予定しています。

地域や施設、職場の特性に応じた防災講話を行うとともに、実際に地域の地図を使って避難場所への移動経路や移動中に火災が発生して迂回する際の経路確認などを行うDIGなど、さまざまな訓練を提供できます。

研修や訓練を希望される場合は、実施希望日の1カ月前までにご連絡ください。他の課を通じての依頼でも構いませんので、気軽にお声をかけてください。研修・訓練の担当は、総務課情報防災係の防災対策専門官です。



問い合わせ先/役場総務課情報防災係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 2 (課直通)

10月11日

いつもとは違った読み聞かせを親子で楽しむ Mintsによる絵本朗読劇の公演



音楽や映像を使った朗読劇

網走市のボランティアグループ「チームMints(ミンツ)」による絵本の朗読劇が10月11日、町公民館で開催されました。

町主催の弟子屈町読書活動推進事業として行われたもので、親子連れなど約50人が参加。絵本の絵をスライドで上映しながら朗読し、ホルンとクラリネットなどの生演奏で盛り上げるなど、一味違った読み聞かせが行われました。参加者からは「大人も楽しめる朗読を聴く機会はあまりなく、新鮮で、楽しく聴き入ることができた」との声も聞かれ、好評のようでした。

10月11日

楽しいスポーツで交流と防犯意識深める ジュニア防犯王争奪選手権を開催



白熱したスポーツチャンバラ

弟子屈地区防犯協会連合会主催の第5回ジュニア防犯王争奪選手権大会が10月11日、摩周観光文化センターで開催されました。

軽スポーツや防犯に関する種目などを通して交流を深めるとともに、防犯意識を高めてもらうことが目的です。今回は、弟子屈・標茶両町から小学生約110人が参加。45チームに分かれ、ドッジビーやスポーツ吹き矢、大声コンテスト、スポーツチャンバラなどを楽しみ、順位を競いました。

10月2日

災害時に園児の安全を第一に 保育士連絡協議会が防災研修



講師の話に聴き入る参加者

弟子屈町保育士連絡協議会が10月2日、おひさま保育園で防災研修を行いました。

同協議会は、おひさま・川湯両保育園に勤務する保育士18人で構成。今年度は、役場総務課防災対策専門官を講師に防災をテーマにした研修を行っており、今回が2回目です。

1回目は災害発生時に園児を守るための基本的な対応、今回は町内避難収容所、特に両園の近くにある避難収容所の位置と避難所に通常備えている物、災害の種類によっては利用できない避難所があることを学びました。また、硫黄山がマグマ噴火を起した際の避難要領なども学びました。

12月4日には、災害図上訓練(D I G)を行う予定です。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

10月19日

やさしさにあふれた温泉と福祉のまちを目指して ふれあい祭り2014を開催



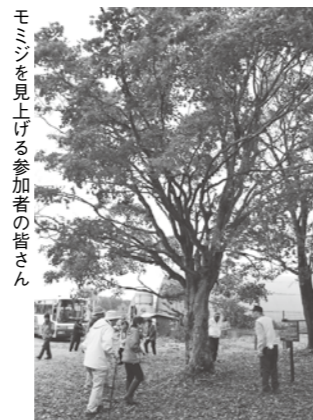
多彩な催しがいつぱいの会場

第4回ふれあい祭り2014(同実行委員会主催)が10月19日、社会老人福祉センターで行われました。

本町のでつなぎ工房はじめ釧根地区の障がい者就労支援施設や同支援団体が集い、障がいのあるなしに関わらず、地域の皆さんが共に楽しみ、触れ合う場づくりを目的に毎年開催しています。川湯ばやしや歌、楽器演奏、紙芝居の披露のほか、縁日やバザー、ハンドマッサージや陶芸などの体験コーナーが用意され、訪れた皆さんが思い思いに楽しんでいました。最後には全員で合唱を行い、交流を深めました。

10月16日

ふるさとの素晴らしさを再発見 秋の名木ツアーで紅葉を堪能



モミジを見上げる参加者の皆さん

2006年に町が指定した名木を巡るツアーが10月16日に開催されました。春に続いて、今年度2回目のツアーです。

根釧西部森林管理署との共催で、釧路市からの参加者も含め28人が参加しました。紅葉を中心に8カ所を回り、名木の選考委員長を務めた須田文男さんから、樹齢などの説明を受けながら見学。名木を見た参加者からは感嘆の声も聞かれました。また、普段はなかなか行くことができないキンムトも訪れました。

10月8日

和琴フィールドハウスで読書も楽しんで 写真家・水越武さんが本を40冊寄贈



寄贈された本を前に左が水越さん

屈斜路在住の写真家・水越武さんが10月8日、自然に関する書籍約40冊を和琴フィールドハウスへ寄贈されました。

環境省川湯自然保護官事務所の中原一成自然保護官は「水越さんからの寄贈により、和琴フィールドハウスの書籍がより一層充実しました。来年からは、利用者の方に野外活動だけでなく読書も楽しんでいただきながら、和琴フィールドハウスや野営場でゆっくりと過ごしてほしい」と話していました。

同施設は11月から冬季休館となり、来年4月下旬から再オープンします。

10月7日

屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会 摩周岳登山道で今年度2回目のササ刈り



手際よく作業を進める皆さん

川湯エコミュージアムセンターを運営している屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会(会長・徳永町長)を中心とした関係機関の皆さんが10月7日、今年度2回目となる摩周岳登山道のササ刈りを行いました。

今回は6月の1回目のときよりも長い距離で、登山道入り口から西別岳への分岐を経て山頂に至る約7キロ地点までの間で行われました。作業は4グループに分かれて実施。弟子屈町森林組合員5人が機械で草を刈り、12人が熊手で刈られた草を道の中央部に集めていきました。作業は6時間ほどで終了し、歩きやすい登山道となりました。

10月21・22日

地域の食材への理解を深めよう 「くしろふるさと愛食月間」で地産地消の給食



最上級A5ランクの牛肉に舌鼓

釧路管内の食材を生かした学校給食が10月21・22の両日、町内小・中学校で提供されました。

釧路管内町村会で取り組む、活力ある農畜産業プロジェクトの一環です。10月を「くしろふるさと愛食月間」とし、地域の特色を生かした学校給食を通して地産地消や食育の向上を図ることが目的です。今回は21日に釧路産サケのチャンチャン焼きと弟子屈産野菜のポテトサラダ、22日に摩周ビーフ丼、弟子屈産大根サラダ、弟子屈産牛乳が提供され、子どもたちがおいしそうにほおぼっていました。

10月20・21日

路線バスをもっと利用しよう 弟子屈市街地区で「バスに乗ろう会」



整理券を取っていき乗車

弟子屈町地域公共交通活性化協議会(会長・徳永町長)では10月20・21の両日、弟子屈市街地区の住民の方を対象に、バスの乗車体験や路線バスに関する意見交換を行う「バスに乗ろう会」を開催しました。

両日合わせて、約30人が参加。弟子屈バスターミナル前でバスの乗り方教室を行った後、実際にバスに乗り、弟子屈市内線を体験しました。乗車後、役場で意見交換会を開催。町内路線バスの運行状況などが説明され、参加者の皆さんからは「公共交通としてバスが必要」などの意見が出されました。

10月10日

災害発生時に輸送面で支援 釧根地区トラック協会川上支部と防災協定



協定書を手

町と釧根地区トラック協会川上支部(岡村支部長)による「緊急時における輸送業務に関する協定」締結式が10月10日、役場で行われました。

同支部には、弟子屈・標茶両町の輸送業者15社が加盟。協定により、大規模災害発生時に町から協会に要請があった際には、支援物資の運搬、土砂やがれきの運搬を優先的にを行います。徳永町長は「予期せぬ災害に対して町だけで防災対策を講ずるには限界があるため、協定に感謝する」と述べ、岡村支部長は「この地で事業を行い町民の生活を守る側として、このような活動に参加できることに誇りを感じつつ、防災活動に尽力したい」と述べました。

10月10日

来年の出来上がりが楽しみ ワイン醸造用ブドウを収穫



ブドウを収穫する徳永町長ら

ワイン醸造用ブドウの収穫が10月10日、町民農園などで行われました。

町では2009年から、ワイン用ブドウの試験栽培を行っています。新しい特産品としてワインを作るため、十勝ワインで有名な池田町の協力を得ながら、寒冷地に適した「山幸」という品種、約600本を栽培しています。

今回は約140キロのブドウを収穫。この量で約120本のワインができる見込みです。糖度も平均18.7度と醸造用としては十分で、早ければ来年の秋には弟子屈産ワインが誕生する予定です。